

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	13-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and aortic arch calcification in an older Chinese sample: the Guangzhou Biobank Cohort Study. 中国人高齢者の飲酒と大動脈弓石灰化 : Guangzhou Biobank コホート研究		
執筆者		
Jiang CQ, Xu L, Lam TH, Thomas GN, Zhang WS, Cheng KK, Schooling CM.		
掲載誌		
Int J Cardiol. 2013 Apr 15;164(3):349-54. doi: 10.1016/j.ijcard.2011.07.046.		
キーワード		PMID
大動脈弓石灰化、飲酒、動脈硬化、高齢者、中国人		21813196
要 旨		
<p>背景・目的： 飲酒と循環器疾患の J 型の関連性が疫学研究で報告され、欧米では中等量飲酒が冠動脈疾患や動脈硬化のリスクを低下させる一方、飲酒は冠動脈石灰化とも関連していることが報告されているが、中国人の集団ではこの関連性は検討されていない。この研究の目的は、中国人高齢者における飲酒と大動脈弓石灰化（以下 AAC）の関連を調べることである。</p> <p>方法： 50～85 歳の高齢者 27,844 名において、社会経済学的因子、生活習慣因子が質問票で調べられた。胸部 X 線検査の結果から AAC の存在の有無と重症度が 2 名の経験豊富な放射線科医により診断された。</p> <p>結果： 男性において AAC のリスクは、飲酒頻度と飲酒量それぞれの調整オッズ比が週 5 回以上の高頻度飲酒者で 1.36 (信頼区間 (以下 CI) 1.16-1.59) (<i>P</i> for trend 0.002)、大量飲酒者で 1.49 (CI 1.21-1.83) (<i>P</i> for trend 0.001)、と有意に増加した。AAC を重症度 3 カテゴリーによる結果の変数として分析すると、AAC 重症度と飲酒との間に有意な量-反応関係が観察され、週 5 回以上の高頻度あるいは大量飲酒群でより重症な AAC であった (<i>P</i> for trend はそれぞれ 0.03 と 0.02)。女性においては大量飲酒者がほとんどいなかったため有意な関連性は認めなかった。</p> <p>結論： AAC の存在の有無と重症度は飲酒頻度及び飲酒量と容量依存的な関連がみられた。飲酒は中等量であっても AAC に対して保護的に働かないことが示唆された。大量飲酒は非飲酒者に比べて AAC のリスクを 50%増加させる。</p>		